

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	2171800259		
法人名	特定非営利活動法人グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム「和居和居」		
所在地	岐阜県土岐市泉町大富174 (電話) 0572-53-1233		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年3月16日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 25 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 14 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	16 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,800 円	その他の経費(月額)	30,500~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(380,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	150 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 25 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	8 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 86.1 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	土岐内科、阿部歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

道を挟んで民家が数軒あり、顔を合わせれば挨拶をし、回覧板を届けたり、花や干し柿をもらえば、遠足に出掛けたときには土産を届ける等、近所付き合いを大切にしながら「我が家に居るように過ごして欲しい」との思いで日々のケアに取り組んでいる。24時間の看護体制や、家族の泊まりこみでの協力により、1名の看取りの経験もある。年2回の家族会への参加者も多く、認知症専門の協力医から話しを聞いたり、家族同士がそれぞれの思いを心の底から話し合える機会となっており、利用者と職員そして家族は喜怒哀楽を共にし、支えあいながら、「利用者尊厳の尊重」「地域に根ざしたホーム運営」というホーム理念の実現を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流が改善事項となっていたが、昨年度は岐阜県社会福祉協議会に加入し、認知症デイサービスとの交流を図る取り組みがある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に用紙を配布し、それぞれが自己評価する中で、自分自身を振り返り、課題の発見や、再確認をすることが出来た。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長、利用者家族等が参加し、3ヶ月に1度、ホーム内に於いて実施している。運営推進会議に参加した4名の家族からの提案・協力で、五平餅を作り、利用者、家族、職員を始め、地域の役員や行政の出席者とともに食べながら、グループホームや利用者を知ってもらう機会となった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会には半数程の参加者があり、グループホームを利用する家族同士としての思いを心おきなく語り合い、傾聴している職員の心にも深く伝わり、一人ひとりの利用者への対応やホームの運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域とは、日々の挨拶、回覧板届け、花や干し柿等をもらった人への土産配り等、家に居た時の様な近所づきあいが継続できるよう、支援している。地域の行事に出掛けたり、ホームの催し物への招待等も定着してきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者尊厳の尊重」「地域に根ざしたホーム運営」というホーム独自の理念をつくりあげ、利用者が在宅での生活を継続し、我が家のように過ごせるホーム作りを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設して6年、スタート時からの職員が多く、3年以上の職員は殆んどが認知症介護実践者研修を受講済みで、理念が共有されており、実践に活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板から情報を得、どんど焼き等の行事に参加したり、七夕コンサート等のホームの行事に招待し、花や干し柿をもらった隣人へ旅行の土産を届ける等、日常的な付き合いがされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は自己評価や外部評価の意義を深く理解し、外部評価を利用者一人ひとりの介護に活かしている。今年度も振り返りの機会としてパートを除く職員で自己評価に取り組んだ。	○	自己評価には、パート職員も含む全職員の参加があると更に良い。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長、利用者家族等が参加し、3ヶ月に1度、ホーム内に於いて実施している。参加家族からの提案・協力で、五平餅を作り、利用者、参加者、職員が共に賞味し、和やかな意見交換が行われた。	○	運営推進会議は行事に関することが主となっている。行政からテーマを持って参加してもらおうとか、ホームが抱えている課題や取り組み等、間口の広い話し合いがもたれる事に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加職員から、さまざまな情報を得ている。市が派遣している介護相談員を活用したりしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の「和居和居新聞」による連絡に加え、6月から月例報告として、学習会や利用者の生活の様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、重要事項説明の中で、苦情箱の設置、ホーム内による苦情受付専用窓口、行政機関その他の苦情受付機関等を説明している。	○	面会時や電話での意見や課題はミーティング等に於いて検討しているが、枕カバーが見当たらない等、小さなことへも対応し、その記録があると良い。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎の異動は、利用者への影響を最小限に抑える為、半年か1年の間隔を置き、少人数ずつとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は勤務の中で各種の研修に参加しており、3年以上の経験者はすでに認知症介護実践者基礎研修を受講している。介護福祉士の資格取得者も多く、社会福祉士の資格取得へ熱意をもって挑戦している職員もおり、資格取得を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県社会福祉協議会に加入しており、認知症デイサービスとの交流を図る取り組みがある。会合での出会いを通し、情報交換が行われ、サービスの質の向上に反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者には、家族と共にホーム見学したり、1日体験をしてもらい、安心して利用開始が出来るよう配慮している。また、デイサービスやショートステイの利用を経てグループホームへというように、雰囲気馴染んでからの利用も多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	我が家のような日常生活を共に過ごす中で、日々の何気無い会話や共同作業の中から、得意な事、嬉しい事、出来ない事、やってほしいこと等を知り、支えあい、楽しんだり、学んだりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	週5日実施する学習療法の中で、15分間をコミュニケーションタイムとしているが、利用者はとても楽しみに待っており、一人ひとりの思いを把握する事が出来、利用者本位のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には、前もってケア会議の実施日を連絡し、できるだけ参加してもらい、利用者の意向、家族の意見、アイデア、職員の気づきを反映した利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎、または、入退院時や介護度2段階以上の変更時に、家族も同席して、見直しのためのケア会議を実施し、利用者の現状に合わせた新たな介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の訪問看護体制、正月等の外泊支援、遠足等の特別な外出支援の他、希望に応じて訪問歯科医による口腔ケア、職員による通院支援等も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症専門の協力医による月2回の往診の他、本人や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医への受診を継続している利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入院が1ヶ月を経過した場合は退居となる事や重度化への対応については、重要事項説明の中で同意を得ている。入居後は、利用者の状況変化に合わせ、医師、看護師を交え家族と共にきめ細かに話し合い、方針を一つにして対応しており、今年度は家族が宿泊し、共に支えあいながら、1名を看取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	開設時からの職員や認知症介護者実務研修を受講している職員が多いが、管理者は、更なるサービスの質の向上を目指し、利用者へ支持的な言葉を使用しない等、プライバシーに関するホーム内研修を計画している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室の位牌に、庭の花の一枝を供え、手を合わせたり、親族の法事に行くなど、利用者の思いに添った支援をしている。毎週1回の乳酸菌飲料の配達日を忘れず、楽しみに待っている利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の好きな物を献立に取り入れ、希望者と食材の買い物に出掛け、準備や片付け等、共に行っている。要介助者へは最後まで職員がゆったりと介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は入浴を楽しみにしており、毎日でも入浴出来る様、準備している。平均して1人当たり1日おき、一人ひとりの希望に合わせて支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、活け花、回覧板届け、花壇の手入れ等を役割として自主的に行っている利用者もいる。天気の良い日には、近くの公園に散歩に出掛けている。また、年齢の近い60～70歳のボランティアによる五感体操は利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者と共に、食材の買い物、喫茶店や外食、散歩等、ホームから外へ出掛ける支援をしている。家族と図書館に行って本をかりてくる利用者もいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常的に施錠しておらず、外へ出たい利用者の動きにはセンサーで気づき、話を聞いたたり、一緒に外出してくる等、職員全員が、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導により、避難、消火、通報の訓練を実施している。運営推進会議を通し、地域への協力を要請している。	○	リビングの向かいには民家が並び、災害時の協力体制が重要課題である。夜間を想定した訓練、応急手当の継続学習、避難経路の確認等、更なる具体的な取り組みが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リビングには、利用者がいつでも自分で飲めるように、常時、急須にお茶を準備している。水分管理の必要な利用者には、お茶はポットに入れ、毎朝回収して摂取量の把握をしている。食事の摂取量をチェックし、全職員で共有し、利用者の健康を管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、換気、空調も程よく調節されている。リビングには食卓とは別に、テレビを囲み、ソファとテーブルが設置してあり、食事の後、ゆったりくつろげる。花壇に面した居室の前のベンチは、手入れの後、休憩したり、作業を眺めたりするのに丁度良い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、タンス、椅子、大正琴や家族の写真、踊りに使用していた扇子等の小物等が持ち込まれ、一人ひとりの利用者が、我が家に居るようにとの思いで、職員は家族と協力しながら、生活感のある環境作りに努めている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。